

天文館史跡めぐりマップⅡ

島津七十七万石の城下町

現在、繁華街として賑わう天文館は、かつて、島津七十七万石の城下町として栄え、現在の電車通りより南側にも、広大な敷地をもつ日置島津家など大身の屋敷や、松原山南林寺などがありました。

また、天文館地域より西に位置する加治屋町は、西郷隆盛・大久保利通をはじめ、多くの偉人を生み出した町です。

このたび、天文館北部地域を紹介した「天文館史跡めぐりマップ」に引き続き、加治屋町から天文館南部地域の史跡や通りの銘碑などを紹介したマップを作成致しました。

このマップを手に入れた天文館、加治屋町を歩いているとき、歴史を感じていただければ幸いです。

	大久保利通（おおくぼとしみち）像 この銅像は、没後100年を記念して昭和54年9月26日に設置された。制作者は中村晋也氏。 大久保利通は西郷隆盛らと倒幕運動を推進し、明治維新を成し遂げた。西郷隆盛、木戸孝允と並んで「維新の三傑」と称される。		西郷隆盛（さいごうたかもり）誕生地 大久保利通・木戸孝允と並び、「維新の三傑」と称される西郷は、1827年12月7日、7人兄弟の長男としてこの地で誕生した。郷中教育の中で文武に励み、13歳で右腕を負傷し武芸はあきらめたが、いっそう学問に励み、二才頭として郷中の仲間の人望を集めていった。		山本英輔（やまもとえいすけ）誕生地 1876年生まれ。山本権兵衛の甥にあたる。日露戦争では第二艦隊参謀として参戦。海軍大学校長等を経て、1927年に新設された海軍航空本部の初代本部長に就任。その後連合艦隊司令長官などを要職を歴任した。最終階級は海軍大将。		菩薩堂通（ぼさどおひ） ポサド通りの名の由来は、地蔵角近くに「二十三夜勢至菩薩（二十三世イソバツ）」という菩薩堂があったことにちなみ、菩薩堂（ボサド）通りとなったといわれる。
	萩原小路（はぐわらんしゅつ） 文化通りから甲突川河畔までの通りを言う。かつて、この小路に面して萩原家があったことからこの名前がついたと言われる。「小路」は細い道を指し、鹿児島弁で「シュツ」と呼ばれる。山之口町の中央ビル裏にも通りの銘碑が設置されている。		西郷従道（さいごうつぐみち）誕生地 1843年生まれ。西郷隆盛の弟。山縣有朋と共に渡欧して軍制を調査し、陸軍の創設に尽力した。西南戦争の際には、兄隆盛には加担せず政府に留まった。その後は海軍大臣、内務大臣、元老として枢密顧問官などを歴任し、1898年には元帥の称号を受けた。		安藤照（あんどうてる）誕生地 1892年生まれ。彫刻家。東京美術学校を卒業し、帝国美術院展覧会（帝展）で特選を数回受賞し、帝国美術院賞も受賞。昭和2年には帝展審査員に就任している。代表作に美術館横の「西郷隆盛像」、東京渋谷駅前「忠犬八公」がある。		がんがら橋 名前の由来の一つに、藩政時代にこのあたりに広い土地をもっていた中国からの帰化人の沈一貫の「貫」と唐国の「唐」をとって、貫唐橋（カンガラバシ）と呼ばれていたためという説がある。現在では大正14年に掛け替えられたときの親柱4つのみが残っている。
	二本松馬場（にほんまつばあ） 文化通りから甲突川河畔までの通りを言う。かつて、この馬場の真正面に、武大明神ヶ丘（武岡）が見え、岡の二本の松の大きさが非常にすばしかったことから、この名がついたと言われている。鹿児島中央高校横にも通りの銘碑が設置されている。		東郷平八郎（とうごうへいはちろう）誕生地 1847年生まれ。日露戦争では連合艦隊司令長官として、当時世界屈指の戦力を誇ったロシアのバルチック艦隊を全滅させ、その名を世界に轟かせた。多賀山公園には、錦江湾を見下ろす東郷平八郎の銅像が設置されている。		四方学舎（しほうがくしゃ）跡 ここには、明治25年(1892年)から昭和44年(1969年)にかけて、健児の舎として武芸に励み、志魂の育成を行なった四方学舎があった。四方学舎からは、内閣総理大臣黒田清隆や彫刻家安藤照など多くの逸材が育った。		塩釜神社（しおがまじんじゃ） 寛永5年（1628年）藩主島津家久の創建と伝えられる。塩釜明神ともよばれ、塩土老翁を主祭神とする神社。この地区の海浜は塩田であったため、塩業を営む人が多かったという。
	猫の薬師小路（ねこんくそしゅつ） 昔、この付近に猫、犬の病気を治す医師（薬師）が住んでいたことから、この名がついたと言われる。猫の薬師小路が鹿児島弁でなまり、「ねこんくそしゅつ」と呼ばれる。加治屋町の西日本シティ銀行前にも通りの銘碑が設置されている。		村田新八（むらたしんぱち）居宅跡 年少のときから西郷隆盛に兄事し、西郷が徳之島に流された時には、喜界島に流された。1871年には宮内大丞に任命され、同年、岩倉具視らの欧米使節団に同行。帰国後、下野した西郷を追って帰郷し、西南戦争では二番大隊長として参戦し戦死した。		二官橋通（にかんばしどおひ） 中国から流れてきて島津家に仕えた医師の沈一貫は、名医として有名になり、住んでいた近くの清滝川にかかっている橋に「一貫橋、二貫橋、三貫橋」の名前がつけられ、やがて「貫」が「官」となり、通りの名前となった。		寺之馬場（てらなばあ） 南林寺町の松原小学校前から城南町の城南小学校前まで。この付近は、江戸時代南林寺をはじめ多くの寺があったため、寺へ通じる通りということからつけられたという。
	大久保利通（おおくぼとしみち）生い立ちの地 石碑には「大久保利通君誕生の地」とあるが、大久保利通は、甲突川の対岸の高麗町で生まれ、ここは「大久保利通生い立ちの地」と呼ばれている。幼少期に下加治屋町に引越しをし、郷中に3つ年上の西郷隆盛がおり、共に郷中教育を受けた。		篠原国幹（しのはらくにとも）居宅跡 明治政府の近衛長官のとき、軍事演習を御覧になった明治天皇がその指揮ぶりに感心し、「篠原に見習うように」と、その演習地を「習志野（ならしの）」と名付けたという説もある。西郷に従い下野し、西南戦争では一番大隊長として参戦し戦死した。		橋口五葉（はしぐちごよう）誕生地碑 1880年生まれ。「大正の歌麿」と謳われ、繊細・華麗な美人画を得意とした近代を代表する木版画家。夏目漱石の小説『吾輩は猫である』の表紙絵を描くなど、卓越したデザイン感覚によって装丁家としても活躍した。		月照（げっしょう）の墓・不動明王像 ここ南洲寺には、幕府の追求を恐れ、西郷隆盛を頼って鹿児島に落ち延び、錦江湾に身を投じて亡くなった京都清水寺の僧月照の墓がある。 また、鎌倉時代の作とされ、県の文化財に指定されている不動明王像が安置されている。
	牧野伸顕（まきののぶあき）誕生地 1861年生まれ。大久保利通の二男であり、生後まもなく利通の義理の従兄弟の牧野吉之丞の養子となる。西園寺内閣で文部大臣、農商務大臣、山本内閣で外務大臣となる。第一次大戦後のパリ講和会議に次席全権大使として参加し日本側の中心的役割を果たした。		田代安定（たしろあんてい）誕生地 1857年生まれ。沖縄県八重山諸島の動植物・民族調査や南方諸島の熱帯植物研究に取り組んだ我が国の熱帯植物研究の第一人者。 晩年は鹿児島高等農林学校の講師もつとめた。		天文館通（てんもんかんどおひ） この通りの北側に、1779年島津家第25代藩主重豪により天文・暦学研究・暦編纂の施設である「明時館（別名「天文館」）」があったことから、この名がついたと言われる。		南林寺由緒墓（なんりんじゆいしよばか） かつてこの地には松原山南林寺があり、廃仏毀釈後、墓地が造られ、135,000もの墓があったといわれる。墓地の廃止後も改葬されずに残った墓は南洲寺に改葬され、由緒墓と呼ばれるようになった。万霊供養地蔵尊や文人、武人などの墓が現在でも残っている。
	山之口馬場（やまぐちばあ） 地蔵角付近から加治屋町の甲突川河畔までの通りを言う。かつて地蔵角付近は、松原山南林寺の境内が広がる小高い丘への登り口になっていたため、「登りに通じる道」ということからこの名前がついたと言われる。		馬乗馬場（うまのいばあ） 江戸時代、このあたりに馬を洗うための堀があったという。この付近で乗馬の練習をしていたことからこの名前がついたと言われる。		地蔵角（じぞうかど） かつてこの地には大きな地蔵堂があり、参拝人が絶えなかったという。この地蔵堂の周囲を地蔵角といい、地名の由来となったと言われる。地蔵堂の南側には広大な敷地の南林寺があったが、明治2年の廃仏毀釈により廃寺となった。		大門口（でもんぐつ） 昔、この付近にあった松原山南林寺の北西部に大門口があり、この大門口の東部一帯は大門口と呼ばれた。明治時代の大門口には、鹿児島を代表する料亭が軒を並べ、稲荷座という芝居小屋もあったという。
	黒木属楨（くろきためとも）誕生地 1844年生まれ。陸軍軍人であり、日清戦争では第六師団長として出征し、威海衛占領で功績をあげた。日露戦争では陸軍大将、第一司令官として参加し、鴨緑江から奉天会戦まで連戦し輝かしい戦果をあげた。		牛島満（うしじまみつる）生い立ちの碑 1887年生まれ。沖縄戦における指揮官であり、第32軍を指揮し自決した。陸軍中将（死後大将に昇進）。温厚な性格で、陸軍士官学校校長等の教育畑を歴任したが、第三十六旅団長として武漢、南京攻略にも参加している。		日置裏門通（ひおつらもんどおひ） 天文館通り電停から地蔵角の辺りは、かつて日置島津家の屋敷で占められ、この通りは屋敷の裏門に面していたことから「日置裏門通り」となったと言われる。現在、この通りは「文化通り」と呼ばれている。		大門口砲台跡（だいもんぐちほうだいあと） 1853年完成。6門の大砲をもつ台場であった。薩摩藩主島津斉彬（28代）は沿岸防備のため次々と砲台を築造し、祇園之口、弁天波止場、袴腰、沖小島などにも砲台が築かれた。1863年の薩英戦争時には、この大門口砲台からも砲撃が行われ、英艦と砲火を交えた。
	毛利正直（もうりなおまさ）「兵六（ひょうろく）夢物願の碑」 加治屋町出身の武士である毛利正直が、それまでに存在していた「大石兵六物語」を加筆修正して1784年に完成させたもの。開化政策に便乗する権力者を悪狐にたとえ、これを退治するという意図を込めた作品であり、中期江戸文学の中でも高く評価されている。		佐多愛彦（さたあいひこ）顕彰碑 1871年鹿児島市にて生まれる。病理学者。ドイツに留学し、ベルリン大学ウィルヒョーラのもとで病理学、細菌学をおさめる。結核の研究で知られ、大阪府立医学学校校長、大阪医科大学長を歴任し、のちの大阪大学の基礎をきずいた。		四方限（しほうぎり）出身名士誕生案内碑 鹿児島市の城下では、居住地をいくつかの地域に分けて、それを「方限（ほうぎり）」や「郷（ごう）」といった。古屋敷・新屋敷・樋之口・馬乗馬場の四方限からも黒田清隆、山本権兵衛、伊集院五郎など多数の名士が誕生したことから、昭和3年にこの碑が建てられた。	発行 〒892-8520 鹿児島市小川町3番56号 鹿児島地域振興局総務企画部総務企画課 099-805-7206	